

「鉄楽者」日誌

自

昼、松本でそば屋に入った。そばを待つ間に冷酒の小瓶を空ける（出張じゃないからな）。空気もうまい。ほろ酔いで名古屋に着いた。

計7本の列車を乗り継いだ。疲れではいるが食欲旺盛。手羽先唐揚げ、みそ串カツに続き、台湾フーメン（写真①）を平らげた。3度目の名古屋。

【2日目】

感心したのは、押し寄せる大勢の参拝者を路線バスでさばく手際よさ。バス停の案内から切符の販売まで、お見事だった。拍手。

【III】

紀勢線は空席が目立つ。新潮社日本鉄道旅行地図帳」を広げていると、高齢の男性から声を掛けられた。

「そんな地図があるんですね」

三重県松坂市の人だった。80歳。定年後、夫婦で穏やかな日々を送っていたが、2007年の台風で伴侶

「きょうは熊野市へスケッチに」

熊野に着いた。「お元気で」と私

「ありがとう」と老紳士。

紀勢線は海辺を走る。熊野速玉大社の新宮も、本州最南端駅の串本も、地震があれば津波が心配だ。電車の

た（写真②）。

行く先々で小さな私鉄にも乗つた。

御坊から紀州鉄道で終点西御坊へ。全長2・7キ。落ち着いた商店街も、運転士や駅員の応対も、記憶

【4日目】

奈良を經由して桑名へ。何はとも

あれハマグリを食べられる店に直行。名物にうまいものあり、だ。

【5】

桑名から出る私鉄も味わい深い。
まずは三岐鉄道北勢線の小さな車
両(写真④)にご対面。軌間762
ミの乗り心地を体験したい。数駅分
だけ乗った。そのあとは養老鉄道に
もちょい乗りして桑名に戻る。

7^キ。豊橋を午前10時42分に出た列車は辰野から中央線に入り、岡谷に着いたのが午後5時31分。約7時間かかったが、秘境を眺めながら力ツプ酒（写真⑤）を飲んでいたらあっという間だった。

車内は「同好の士」が多く、列車が駅に着くたびにホームに下り、駅名表示板を撮影しては戻るという動作を黙々と繰り返している。

遅い夕飯を取った岡谷駅前の食堂は馬肉の焼き肉がうまかった。さすが信州。

【6】

岡谷から南小谷へと直行する便利
な列車（写真⑥）に乗る。前日、飯
田線で知り合った大学生が松本から
乗ってきた。春の就職を前に、18き
っぷの旅を楽しんでいるという彼
に、「新潟の味もぜひ」と、糸魚川
駅前で買った地酒と笹子し（写真⑦）
を宣伝しておいた。

何にも用事がなくなつて、糸魚川にまた来ておくれ。

